

事業のポイント	事業代表者・連絡先
■ 地域づくり。	吉田 敦也 (地域創生センター・センター長)
■ 地域課題解決事業。	〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
	tel / fax: 088-656-7651
	e-mail: yoshida@cr.tokushima-u.ac.jp

1. 事業の目的

地域創生センターでは、実践的地域戦略と学内連携のもと、市町村やNPOとの連携強化、サテライトオフィスを核としたまちづくり、ビジネス創出、地域資源活用などの地域課題解決、地域人材育成、地域支援研究に取り組み、「魅力・活力ある徳島づくり」の実践活動を展開した。

2. 地域課題解決事業の取組状況

[地域ICT化推進部門事業] <災害支援に関する研究>

(継続) 小型RCヘリ活用プロジェクト

被災地での簡易で安全な救助活動や被災状況調査に適した無人ヘリの簡易操縦装置及び空撮用自律ヘリの開発を行った。

<地域情報化・にぎわいづくりに関する研究>

①スマートフォンを活用した地域活性化のためのアプリ開発として、徳島市と阿波おどり会館の協力を得て、阿波おどりを盛り上げるためのiOSアプリを開発、リリースした。

②(継続) 水の都とくしまから発信するバーチャル水族館の開発として、安価なカメラを設置するだけで、水中の魚を24時間監視し、飼育を支援するシステムの開発を行なった。

③(継続) 賑わいメーターとして、安価なカメラで、その下を通過する人数を精密に計測するシステムの開発を行なった。

<高齢者コミュニケーション支援>

(継続) NPO徳島インターネット市民塾による「高齢者見守り」とくったー」事業と連携し、ICT活用による県下の高齢者のコミュニケーション支援を行った。

[地域マネジメント部門事業] <中心市街地のまちづくり支援>

「健やかまちづくり構想」として、県やNPOとの連携により、地域交流シンポジウム「健康医療福祉のまちづくりを考える」(平成23年10月16日)の開催や、健康をテーマとした地域づくりの提案を行い、地域との連携で「万代ふ頭地区での健康医療都市構想」実現化に向けて取り組みを開始することとなった。

<中山間地域のまちづくり支援>

①佐那河内村では、「健康を核としたまちづくり」と題し、ウォーキングに訪れる人と村民との交流イベントとして、ウォーキング、オープンファーム、縁側カフェ、道端カフェなどを盛り込んだイベント(平成23年12月4日)を開催した。

②吉野川市美郷では、高開の石積み集落についての農村風景価値の可視化のため調査を行った。調査結果は、価値周知のためのパンフレットに活用の予定である。

③(継続) 地域再生塾: 那賀町吊り橋プロジェクトの継続事業として、本年度はこれらの吊り橋を巡る五つのサイクリングコースを提案する「自転車天国丹生谷」を作成し町内の観光施設へ配付した。

[地域資源活用部門事業]

<中山間ビジネス創出支援> (継続) 地域再生塾: 那賀町民からな

る塾生と特産品ゆずの利用法周知、消費拡大を目標とした取り組みを協働で進めた。このことが前年度開催した「木頭ゆず料理グランプリ」レシピ集作成や、入賞スイーツ「ケサーダ木頭ゆず」の県内洋菓子店での販売、徳島市内での料理教室開催へと繋がった。

[地域連携教育開発部門事業] <SB人材育成>

①(継続) 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部と地域創生センターが連携し取り組む教育プロジェクト[make.app]において、本年度は電子ブック開発に取り組み、上勝町の棚田を紹介する電子ブックを制作し、第17回全国棚田サミットにて配布した。

②(継続) 徳島ロボットプログラミングクラブはJST(独立行政法人科学技術振興機構)の科学コミュニケーション連携推進事業の支援を受け、NPO徳島インターネット市民塾および徳島大学工学部創成学習開発センターと共同で、徳島県内の小中高生24名を対象に大学生23名が企画・運営の中心となって月1回ロボット製作教室を開催した。

<地域人材育成>

①拓殖大学の山本尚史教授を招聘し、地域の中小企業を育て、雇用の場と活力の源泉を生み出す地域経済コンシェルジュ養成をめざした「エコノミックガーデニング勉強会(平成23年12月1日)」を実施した。

②地域の伝統文化や地場産業の見直しから地域資源の活用、ソーシャルビジネス開発を推進させようとする地元若者世代の起業家、実業家らと連携し、徳島での取組みの注目事例紹介、徳島伝統産業と連携した学生起業家によるスタートアップ事例紹介、参加者によるパネルディスカッションによる「459wakuwork四国で暮らすという仕事」を開催した。

3. 地域創生センター運営に関する取組状況

各種相談受付: 鳴門市や一般企業、研究者からの相談を受け、地域活動に関する地域イベント開催や、マッチングを行った。また、大学設備を活用した地域研究活動資料の旧メディアから汎用的な媒体への変換支援を行った。

情報発信 / 共有支援: 地域創生センターのWEBサイトリニューアル、パンフレット作成と配布を行い、センター関連の情報に加え、地域活動に関する情報を随時発信した。また、地域創生センターの価値創出型の地域貢献活動の地盤形成のため、研究活動、学内連携の活性化、内連携活性化プラットフォーム開発に取り組んだ。

4. 受賞・報道実績

受賞:

6月1日 吉田敦也センター長が、総務省「情報通信月間」四国総合通信局長表彰を受賞。ICTを活用して地域課題を解決する先進的な取組を継続的に展開するとともに、地域情報化のプロジェクトリーダーとして産学官連携によるICTの利活用を促進するなど創意と工夫に富んだ地域づくり人づくりに尽力した功績が認められた。

報道:

5月18日「自転車で吊り橋巡ろう 丹生谷応援団、5コースのマップ作成」(徳島新聞)